

対日理解促進交流プログラム「JENESYS」 日 ASEAN 開発協力の歩み交流の記録（招へい）

1. プログラム概要

【目的】日 ASEAN 友好協力 50 周年を機に、①ASEAN 諸国^(注) 及び東ティモールの青年が、過去 50 年にわたる日本の ASEAN への開発貢献、及び日本と ASEAN の開発協力の歩みについての理解を深めること、②将来を担う両国・地域の青年が意見交換することにより相互理解を深め、更なる友好・発展に向けた協力の機運を高めることを主目的に、本プログラムを実施しました。

(注) ASEAN 諸国：インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス（合計 10 か国）

【参加者】ASEAN 諸国及び東ティモールの大学生 174 名

（内訳） オンライン事前学習の参加者：174 名

招へいプログラムの参加者：100 名^(注)

(注) インドネシア（8 名）、カンボジア（10 名）、シンガポール（5 名）、タイ（10 名）、フィリピン（10 名）、ブルネイ（9 名）、ベトナム（10 名）、マレーシア（9 名）、ミャンマー（9 名）、ラオス（10 名）、東ティモール（10 名）

【招へい訪問地】全グループ共通：東京、グループ 1：愛知県、グループ 2：長崎県、
グループ 3：大分県、グループ 4：広島県、グループ 5：千葉県・福島県

【日程】

■ 事前学習（オンライン）

8 月 30 日（火曜日） 【テーマ関連講義・質疑応答】「日 ASEAN50 年の歩みについて」

講師：外務省アジア大洋州局地域政策参事官室首席事務官 矢澤英輝氏

1 月 17 日（火曜日） 【オリエンテーション】

訪日前の個別学習 【動画視聴】「日本理解講義」、「ホームビジット体験」、「南三陸町からのメッセージ」、「愛知の魅力～産業、最先端技術～」、「日本文化理解（京都）」、「広島ピースツアー」、「日本語学習」、「ようこそ日本へ～日本の感染症対策～」

■ 訪日プログラム（2023 年 1 月 24 日～1 月 31 日）

1 月 25 日（水曜日） 羽田空港又は成田国際空港より入国、【オリエンテーション】外務省挨拶
外務省アジア大洋州局地域協力室室長 高水英郎氏

1 月 26 日（木曜日） 【テーマ関連施設視察】国際機関日本アセアンセンター
（在日 ASEAN 出身者、JENESYS 同窓生との交流会含む）

1 月 26 日（木曜日）～1 月 29 日（日曜日）

5 つのグループに分かれ、グループ 1 は愛知県、グループ 2 は長崎県、グループ 3 は大分県、

グループ4は広島県、グループ5は千葉県・福島県を訪問。1月30日に東京都へ移動。

(1) グループ1 :

【視察・交流】国立政策研究大学院大学 (GRIPS : 東京)、【交流】名古屋大学

【講義】「名古屋市について (観光 PR 情報)」

講師 : 名古屋市観光文化交流局観光交流部観光推進課主査 若山寮弥氏

【視察】NPO 法人アジア車いす交流センター (WAFCA)、【視察】名古屋城

【視察】JICA なごや地球ひろば、トヨタ産業技術記念館、【ワークショップ】報告会準備

(2) グループ2 :

【視察・講義】花王株式会社、【視察】長崎原爆資料館、平和祈念公園

【交流】長崎大学熱帯医学研究所 (ASEAN 留学生との交流含む)

【視察・講義】国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館、被爆体験講話 : 築城昭平氏

【体験】折り紙、節句行事 (いさはや国際交流センター)、【ワークショップ】報告会準備

(3) グループ3 :

【視察・交流】JICA 地球ひろば・青年海外協力隊員との意見交換、

【交流】立命館アジア太平洋大学 (ASEAN 留学生との交流含む)

【講義・体験】「一村一品運動 (OVOP)」

講師 : NPO 法人安心院町グリーンツーリズム研究会会長 宮田静一氏、

【体験】菜園、ぶどうの枝出し、だんご汁作り、竹箸作り、茶道

【視察】海地獄 (足湯体験)、鬼石坊主地獄、山地獄、杵築城下町、明礬 湯の里

(4) グループ4 :

【視察・交流】JICA 地球ひろば・青年海外協力隊員との交流 (東京)

【表敬訪問】東広島市市役所、【体験】華道・浴衣着付け (ひろしま国際プラザ)

【交流】広島大学 JDS ^(注) 留学生との意見交換、【視察】広島平和記念資料館、縮景園

(注) JDS : 人材育成奨学計画 (The Project for Human Resource Development Scholarship : 通称 JDS) : 政府の「留学生受入 10 万人計画」の下、実施されている無償資金協力による留学生受入事業。

(5) グループ5 :

【視察・交流】JICA 地球ひろば・青年海外協力隊員との交流 (東京)

【交流】千葉大学 (ASEAN 留学生との交流含む)、【体験】茶道 (宮崎茶道教室)

【講義】「七日町通り街並みの活性化への取り組み」

講師 : 七日町通りまちなみ協議会 副会長 庄司裕氏

【視察】山田木綿織元 (福島伝統工芸品「会津木綿」製造、販売)

【視察】鈴善漆器店 (会津漆器問屋)、さざえ堂、鶴ヶ城、会津武家屋敷

1月30日 (月曜日) 【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表

1月31日 (火曜日) 羽田空港及び成田国際空港より出国

2. 記録写真

事前学習（オンライン）

	
<p>8月30日【講義・質疑応答】 「日ASEAN50年の歩みについて」</p>	<p>8月30日【記念撮影】</p>

訪日プログラム

	
<p>1月25日【オリエンテーション】</p>	<p>1月26日【視察】 国際機関日本アセアンセンター</p>

グループ1（訪問地：愛知県）

	
<p>1月26日【視察・交流】（東京） 国立政策研究大学院大学（GRIPS）学生と交流</p>	<p>1月27日【講義】 「名古屋市について（観光PR情報）」</p>
	
<p>1月27日【視察】名古屋城</p>	<p>1月28日【交流】名古屋大学生との集合写真</p>
	
<p>1月28日【視察】NPO 法人アジア車いす交流センター（WAFC）での車椅子試乗</p>	<p>1月29日【視察】トヨタ産業技術記念館 テクノサーキット試乗</p>

	
<p>1月29日【視察】トヨタ産業技術記念館 車の製造工程</p>	<p>1月29日【視察】JICA なごや地球ひろば</p>
<p>グループ2（訪問地：長崎県）</p>	
	
<p>1月26日【視察・講義】花王株式会社（東京）</p>	<p>1月27日【交流】長崎大学熱帯医学研究所の 学生と交流</p>
	
<p>1月28日【講義】被爆体験者による講話</p>	<p>1月28日【講義】講師と集合写真</p>
	
<p>1月29日【体験】折り紙 （いさはや国際交流センター）</p>	<p>1月29日【体験】節句行事 （いさはや国際交流センター）</p>
<p>グループ3（訪問地：大分県）</p>	
	
<p>1月26日【視察・交流】JICA 地球ひろば （注）グループ4、5と合同実施（東京）</p>	<p>1月26日【視察・交流】JICA 地球ひろば （注）グループ4、5と合同実施</p>

	
<p>1月27日【交流】 立命館大学アジア太平洋大学の学生と</p>	<p>1月28日【視察】海地獄での足湯体験</p>
	
<p>1月28日【視察】海地獄</p>	<p>1月28日【文化体験】茶道（台の茶屋）</p>
	
<p>1月28日【視察】杵築城下町の視察</p>	<p>1月29日【講義・文化体験】 安心院グリーンツーリズム研究会</p>
<p>グループ4（訪問地：広島県）</p>	
	
<p>1月27日【表敬訪問】東広島市市役所</p>	<p>1月28日【交流】広島大学 JDS 生と意見交換</p>
	
<p>1月28日【視察】広島平和記念資料館</p>	<p>1月29日【体験】折り紙 （ひろしま国際プラザ）</p>

	
<p>1月29日【体験】華道（ひろしま国際プラザ）</p>	<p>1月29日【記念撮影】ひろしま国際プラザ</p>
<p>グループ5（訪問地：千葉県、福島県）</p>	
	
<p>1月27日【交流】千葉大学学生と意見交換</p>	<p>1月28日【講義】 「七日町通り街並みの活性化への取り組み」</p>
	
<p>1月28日【視察】山田木綿の工場</p>	<p>1月28日【視察】鈴善漆器店</p>
	
<p>1月28日【体験】茶道（宮崎茶道教室）</p>	<p>1月29日【視察】さざえ堂 木造のお堂(国指定重要文化財)</p>
	
<p>1月29日【視察】武家屋敷</p>	<p>1月29日【視察】鶴ヶ城</p>
	
<p>1月30日【報告会】訪日成果の発表</p>	<p>1月30日【報告会】記念撮影</p>

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ マレーシア 大学生

プログラムは興味深い内容でした。今後さらに多くのプログラムが実施されることを期待します。このようなプログラムは、日本に留学したいと考えている ASEAN 諸国の人々にとっては大変参考になります。講義は私にとって非常に有益でした。私は日 ASEAN 関係の歴史についての書籍を読んだことがありましたが、今回のプログラムを通して、歴史についての理解が深まっただけでなく、50年間の歩みの中で互いが築いてきた信頼関係についても理解することができました。

◆ ベトナム 大学院生

日本と ASEAN の協力関係について多くを学ぶことができました。さらに、本プログラムに参加して、友人が増えました。参加者交流では、私たちが今後、主要な役割を果たすことが期待される日本と ASEAN の協力関係促進をテーマに話し合いました。

◆ フィリピン 社会人

このプログラムは、交流プログラムの本質や目的が十分に示されていました。日 ASEAN 関係のさらなる進展に向けて、参加者が個々に学ぶだけでなく、ここで得た知識を活用し自国の人たちと共有するため、本プログラムで出会った人たちとのネットワーク作りに取り組むことができました。

◆ ブルネイ 大学生

最も印象的だったのは、長崎原爆資料館の視察で、原爆投下の歴史と後世へのメッセージを伝える資料館保管のすべての資料を見たことです。被爆者の中で最高齢の築城昭平さんの講演も忘れられない体験となりました。原爆の話がどれほど怖く、暗いものであるか、信じられませんでした。また、JENESYS での全ての体験は、私の視野を広げてくれました。

◆ カンボジア 社会人

このプログラムでは、お会いした方々の人柄、スマートシティ、技術、科学、歴史、文化など、印象的なことがたくさんありました。最も印象に残っていることは、福島県の七日町通りまちなみ協議会の講義です。街をより良く、魅力的にする方法について、講師から多くのことを学び、その内容は私の国で応用できるととても良い事例でした。私は福島についてもっと学びたいと思いました。

◆ ベトナム 大学生

立命館アジア太平洋大学の学生と交流し、日本人と留学生の多様性に驚きました。留学生は別府市での特別な経験について沢山の情報共有してくれました。大学は、留学生向けに日本語を学ぶ最適の環境を用意し、彼らが日本での生活や学業に適応しやすくするため効果的な教育を提供していることを知りました。また、この大学で学ぶ日本人学生は、相手が聞き取りやすい発音で英語を話そうと努力している姿が印象的でした。同大学での交流プログラムを通じて、教育における各国の連携の可能性と、どのように我々若い世代が文化の壁を越えて手を携え、共に学び、生活し、共生し、更に地域社会の持続可能性と親交を保つ努力していくのかを明確に感じることができました。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 視察先

訪日プログラムに参加者の皆さんはとても意識が高く質疑応答が活発で手応えを感じました。視察後の感想を読んでも、受けた影響を感じ、自分の事としてとらえる能力が素晴らしいです。弊団体が組織化する学生とも積極的に交流してくださり嬉しかったです。

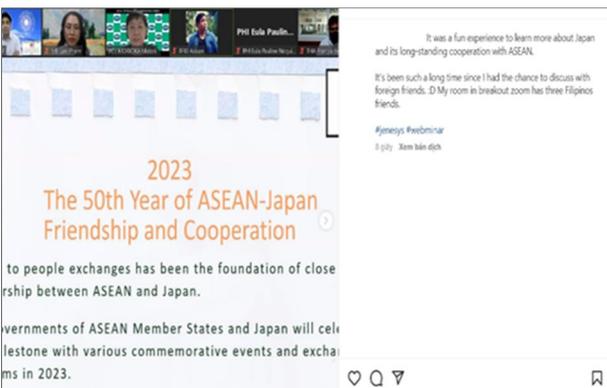
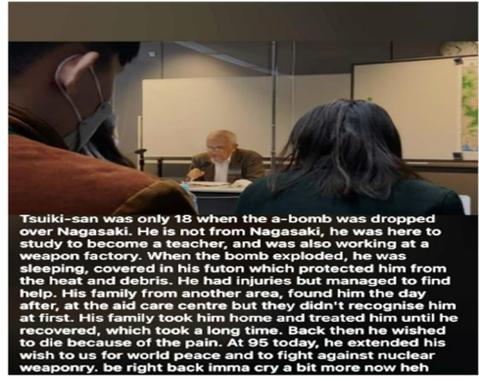
◆ 講師

将来の七日町のまちづくりを進めるにあたって、これからは外国の若い世代の方々との交流が求められると思います。今回がそのきっかけになると期待しています。後継者育成が喫緊の課題ではありますが、これまでの取り組みにとらわれず、自由な発想で将来の地域を描いて欲しいです。そのためにも国際的な感覚で取り組んで欲しいと願っています。

◆ 受入れ大学

とても優秀な学生の方たちが訪日され、我々にとっても、参加した本学の学生にとっても、とても有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。コロナ禍後、久しぶりの受入になったこともあり、対面での交流は得るものが多いことも改めて実感しました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）

	
<p>2022年8月30日（Facebook） 国際交流プログラム、日本 ASEAN 開発協力の歩み、新しい形での国際交流の経験、ありがとうございます！</p>	<p>2022年8月30日（Instagram） 日本や日本と ASEAN の長期に渡る協力関係について楽しく学ぶことができました。久しぶりに海外の友人と話をする機会となりました。</p>
	

2023年1月26日 (Instagram)

インドネシアのバリ島デンパサールから、ようやく日本に到着。日本の第一印象に圧倒されました。樹木の多さ。数だけじゃなくて種類も。所々にソーラーパネルも設置されていて、二酸化炭素排出を抑えるための取り組みも見ることがあります。街は活気に満ちていて、車も高速道路をビュンビュン走っています。「日本ってどんなところ?」と聞かれたら、こう答えると思います。「過去と未来を同時に見ることができる国」と。午後は JICA の地球ひろばに行き、JICA や日本政府の取り組みについて学びました。日本の SDG's への取り組みで、すでに達成したこと、現在取り組んでいることなどについても学びました。

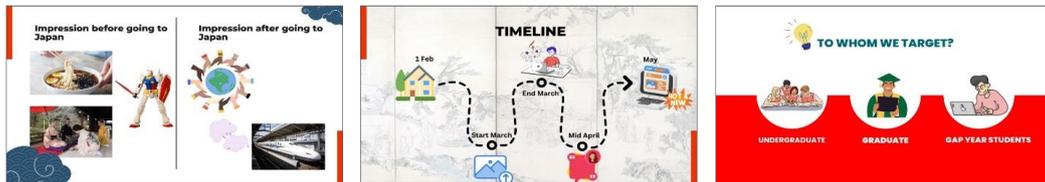
2023年1月28日 (Instagram)

築城さんは 18 歳の時に被爆されました。教員になるために長崎の学校に通い、軍需工場でも働いていました。原爆が落とされた時、築城さんは布団を被って寝ていたことで、熱線やガラスの破片等から守られたそうです。怪我をしながら、何とか救援所にたどり着いて手当をしてもらったそうです。翌日、築城さんを探していたご両親に会うことができましたが怪我の状態がひどく、最初は自分たちの息子と分からなかったそうです。ご両親は築城さんを家で看病されましたが、治るまでに長い時間がかかったそうです。あまりの傷の痛みに、死にたいと思ったこともあったそうです。現在 95 歳の築城さんは、心から世界の平和を願い、それを私たちに伝え、原爆の根絶を訴える活動を続けていらっしゃいます。

6. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表 (抜粋)

グループ 1 (訪問地: 愛知県)

グループ 1 ①



■ 実施計画: 日本と ASEAN の関係について学部生・大学院生・入学前や休学中の学生に紹介

■ 実施方法:

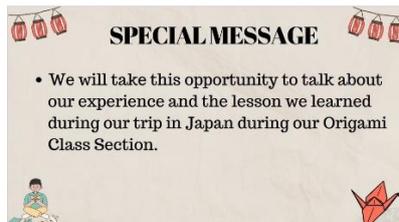
- ① ブログを投稿して口コミを収集する。また、指定のハッシュタグを付けて視察先の情報や視察中に撮影した動画やコラージュ写真を SNS に投稿する。
- ② 本プログラムで経験したことを、大学の掲示板、機関紙や地方新聞に掲載する。
- ③ 本プログラムで得た知見を率先して情報発信する学生アンバサダーになる。そして、私たちが周りの学生と協働し、日本の文化や歴史を自国内で広めていく。

グループ 1 ②



- 実施計画：プログラムを通して日本の文化や歴史を学びました。また、日本の至る所に最先端技術が施されていることを知りました。自国では発展途上の地域が数多くあり、様々な課題が山積しています。帰国後は周りの学生や行政と協働して、自国が今抱えている課題の解決策を協議・抽出する団体を設立します。団体が主体となって解決策を試行し、一定期間が経過した後に当該団体内で振り返ります。振り返った内容を自国内の学生や行政にプレゼンテーションするとともに、より良い解決策やプログラム内容を模索してまいります。

グループ1 ③



- 実施計画：日本特有の折り紙文化を自国で広めます。折り紙体験会の間に、参加者に、我々の日本での学びや体験を話し日本について伝えます。
- 実施方法：コミュニティーセンター、学校、大学、介護福祉施設、ユースクラブ等で13歳以下の子どもを対象に、折り紙体験会を開催します。
- 実施時期：週末行事・集会、学校の休憩時間、学校に掛け合い、折り紙教室の時間を特別に設けてもらう・学校の図工の時間、2月の国際フレンドシップ・デー

グループ2（訪問地：長崎県）

グループ2 ①



- 実施計画：
 - ① SNS へのアップロードと共有（2023年1月27日）プログラムで経験したことを、Instagram や Facebook で写真やストーリーを使用して多くの人に共有し、SNS のプラットフォームを構築する
 - ② オフラインを通じ、体験談を基にビデオを製作し、学生に観てもらおう。また、JENESYS の概要、及び日本文化の素晴らしさを紹介し、若者たちにこのプログラムへの参加を促す。

グループ2 ②



実施プロジェクト： ①長崎は、原爆や平和の大切さについて、私たちに多くのことを教えてくれるため、「平和の震源地」と ②長崎は、日本の中でも観光地として魅力的な県の一つであるため、「ピースツーリズム」を実施する。

- 実施計画
 - ・ ネットワークユーザーを対象に、動画とスライドショーを作成・公開する
 - ・ 青少年を対象に、オンライン会議を開催する
 - ・ 家族・友人を対象に、少人数のワークショップを開催する
 - ・ 友人を対象に、コーヒートークを開催する

グループ2 ③



「一期一会会議」：人と人との協力・連携を促進するため、日本及び ASEAN の文化を知り、理解を深めるため、JENESYS のような交流プログラムに参加し、文化や伝統を促進する方法を見出すため、高校生・大学生を対象に、「一期一会会議」を実施する。

- 実施方法：ブレンドドラーニング形式（対面勉強会とオンライン勉強会を組み合わせた学習形式）

グループ3（訪問地：大分県）

グループ3 ①



- カンボジア：グリーンツーリズムを奨励する新たな政策モデル

1. 地域製品の生産や販売を促進する新たなプログラムを実施する。
2. 自身の地域で作る産物を多様化する。
3. 自身の地域で科学技術を活用し、生産性を向上させる。
4. 地域や自治体の活動を強化する。

- インドネシア：東ジャワ州の農産物促進

1. 一村一品運動を活用し、各村の主要農産物を一目でわかる地図を作成する。
2. 各村の主要農産物について情報収集する。
3. 各村の主要農産物の詳細情報を1.の地図に紐づけ、SNSで発信する。

- フィリピン：清潔な場所を増やし、衛生的な地域構築を図る

1. 日本がどのようにして清潔さを保っているのか調査する。
2. 行動だけでなくマインドセットを含めた教育を実践する。
3. ごみ収集とリサイクル活動を始める。

4. ごみの削減と再利用の活動を促進する。

■ シンガポール：JENESYS 同窓生を通して日本文化を学ぶ

1. 来日プログラムの写真や Instagram のストーリーを投稿。
2. LinkedIN に JENESYS について簡単な内容を書く。
3. 自身が通う大学内の日本クラブでブログを立ち上げる。
4. 個人の SNS にプログラムでの経験をシェアする。

■ タイ：本格的なタイ文化交流プログラム

1. アクション・プランを起案する。
2. タイの文化に係るそれぞれの分野の専門家を探す。
3. プログラムの利点を調査する。
4. 政府にプロジェクトの最終案を提言する。

■ 東ティモール：地方の製品に付加価値を付け人々を教育する。

1. 日本での学びについて日誌を書く。
2. 日本で得た知見を基に、地域のブランディングや商標登録をサポートする。
3. 文化を大切に作る若者を育成する。

グループ 3 ②



■ 実施計画：日 ASEAN 各国の若年世代がコミュニケーションをとる機会を増やすことで、日 ASEAN の各国間の相互理解をより強固なものにするため ASEAN 学生 400 名～500 名を対象に、総体的なアプローチとして以下を実施する。

セクション 1 「日出ずる地」への羅針盤：日本文化の本質について簡単な紹介

セクション 2 黄金色の討論会：現在の日 ASEAN 関係について学生たちによる意見交換

セクション 3 青年たちへの黄金色のチケット：JICE にスピーチを依頼

セクション 4 JENESYS 同窓生のネットワーク：JENESYS 参加者より、JENESYS プログラムの概要や日本の文化や歴史、技術の自国内での情報発信

プログラム運営担当の留意点：国際文化言語クラブ、HCMUE（ホーチミン市立師範大学）のベトナム学生連合、英語のコミュニケーションハウス（このネットワークのフォロワー総数：60,000 人）との連携

グループ 3 ③



■ 大分県での気づき

1日目：別府市を発展させていくための取組、日本の大学でのキャンパスライフや生活様式、交通手段

2日目：足湯や茶道など、他国には無い日本独自の風習や文化を理解すること

3日目：大分の農家の方は畑作業や竹細工などを、運動の一環と捉えて楽しんでいること

■ 実施計画：ASEAN 諸国の学生が、日本の文化や最新技術に対する知見・理解を深めるため以下の内容について、学内でのポスター掲示、対面及びオンラインでの勉強会の開催する。

- 例：
- ・ 日本の交通紹介
 - ・ 日本人の生活水準紹介
 - ・ 新幹線紹介
 - 日本を移動するための最も速く便利な方法
 - 新幹線の最高速度は時速 240～320km
 - 最低価格 1,000 円、東京～大阪 8,750 円
 - 現在、路線のネットワークは 2,764 km (1,717 マイル) で日本の大都市のほとんどをカバー
 - 完全に電子化されていて、通常の旅客機と比べ、一乗客マイル当たりの二酸化炭素排出量は 1/8 である。

グループ 4（訪問地：広島県）

グループ 4 ①



アクション・プランの実施：「各国の参加者に合わせて、・期待すること（歴史・文化・言語）」「体験（環境、和食、伝統）」「学んだこと（人とのつながり、時間の管理、思い出作り、知識を得てそれを活用すること）」を以下の方法で共有する。

- ・ ブルネイ／フィリピン：公開セッション、ウェビナー、高等教育機関
- ・ ミャンマー／東ティモール：ブログの動画版とブログ、ラジオ、Youtube チャンネル
- ・ ラオス／タイ：動画、解説、Facebook と TikTok

グループ 4 ②



- 実施計画：各国の若者に人気のあるソーシャルメディアプラットフォームを活用し、JENESYS プログラムを通じて学んだ経験や知識を広める。ワークショップの開催、また各国のセンターやクラブと協力して共同セッションを実施する。

案：・毎週 Facebook や Instagram に投稿する。「7つの投稿、日本での7日間」
 ・JENESYS の学びや体験を共有する会の開催。協力者を増やし、出版する

グループ4 ③



- プログラム「日本なんでも！」：東京にはにぎやかな通りから静かな寺院や庭園までであるように、日本には誰もが楽しめるものがある。文化、アニメ、娯楽、技術、教育等、様々な面で日本の魅力を発信し、自国の若者が日本に対する関心を高めるためのイベントを実施する。

グループ5（訪問地：千葉県、福島県）

グループ5 ①



- 実施内容：日本に関心のある大学生を対象に、日本と ASEAN 交流会の開催

■ 実施理由：

- 本プログラムの参加メンバー間の相互コミュニケーションを促進するため。
- 日本への交流プログラムについて、自国の多くの人に知らせるため。
- さらに多くの人に日本文化について知ってもらうため。
- JENESYS のプログラムを広め、日本の食べもの、教育、文化に関する我々の経験を共有する。

グループ5 ②



- 実施内容：各国の大学、地域コミュニティで、大学の仲間、家族、友人を対象に、本プログラムで得た知見を ASEAN 諸国で広めるためのセミナーを開催する。

グループ5 ③

Honouring
identity,
history
and culture



Sharing of knowledge
and experience



Adapting to modern
society and global
cultures



■ プログラムを通して感じたこと・学んだこと

- 日本人は皆がアイデンティティを持ち、日本の歴史と文化を誇りに思っていると
- 歴史や文化を守り、発展させていくために知識と経験を代々引き継いでいること
- 現代社会への適応と、世界各国の文化を理解しようとする姿勢を保っていること

■ 自国にある諸問題

- 地域文化に対する関心の欠如
- 文化保存とその推進に対する政策と規制
- 文化奨励における融通性の欠如

■ アクション・プラン

- 地域文化の情報推進：シンポジウム、ワークショップ、SNS キャンペーンの開催
- 文化活動への参加：身近な人々のボランティア参加と文化遺産への理解を促進する(食、芸術など)
- ASEAN プログラムを同世代の仲間を紹介する：地域社会とコミュニティへ経験と提案の共有

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）